

2021年度 連携機関レジデントとして緩和ケア内科にて研修を終えた先生より感想をいただきました。

私は普段市中急性期病院で総合診療内科に属して診療を行ないながら、訪問診療の勉強をしています。その中で、救急や集中治療の分野では触れる機会の少なかった癌や心不全末期の患者様に携わることが多くなりました。自分の未熟さを覚え今回、帝京大学緩和ケア内科での研修を志望させていただきました。病前から現在まで、そして最後に至るまでに患者様が経験する「patient journey」を隣に立って支えるための考え方、症状に対する実践的なプラクティスを数多く学ばせていただくことができたと感じています。目や耳にする機会は非常に多くなってきているものの、必要としている患者に対して緩和ケアの視点を持って診療にあたる医師の少ない分野であることも知ることができました。

微力ながら今後自身がその一員として働くことができる様、また次の後輩達に伝えて行きたいと思います。

角野太郎